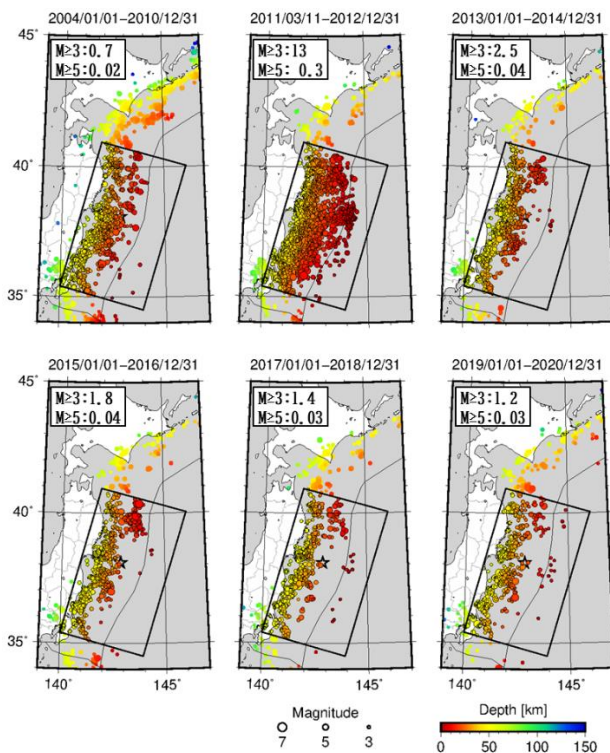


東北地方太平洋沖における最近の地震活動

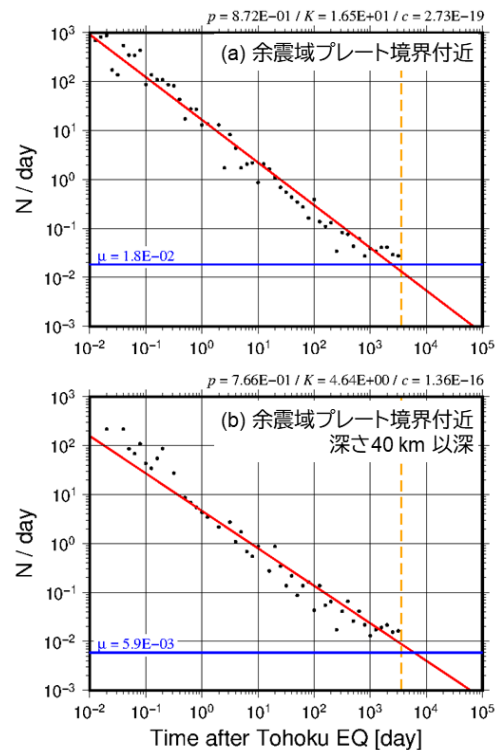
汐見 勝彦(防災科学技術研究所)

ポイント

- ◆ マグニチュード(M)5 以上の地震活動は、平均的には東北地方太平洋地震前とほぼ同等なレベルに戻りつつあるが、
 - ・ 本震時の大すべり域周辺におけるプレート境界付近の地震活動は、2020 年末時点で低調なまま
 - ・ 青森県東方沖～岩手県沖で発生する地震やプレート境界付近の深さ 40 km より深部で発生する地震は、やや活発な活動を継続
 - ・ 東北地方太平洋沖地震の約 10 年前から相対的に M の大きい地震が多かった点に留意が必要
- 日本海溝海底地震津波観測網(S-net)の整備により、海域で発生する地震の検知率向上、震源決定精度が向上しつつあるとともに、日本海溝周辺のスロー地震活動の把握が進展
- 2020 年末時点で地球潮汐と地震活動の明瞭な相関は見えない
- 余震活動をリアルタイムで予測するシステムを試験稼働中



第1図 気象庁一元化震源カタログによる東北地方太平洋沖周辺の M3 以上の地震活動。図中の☆は東北地方太平洋沖地震の震央位置を、枠は気象庁による余震域を示す。左上の数字は、各図表示期間内における、M3 以上あるいは 5 以上の地震の 1 日あたりの地震数を表す。



第2図 余震域内プレート境界付近で発生した M5 以上の地震の daily 発生回数(●)と大森-宇津則の適用結果(赤線)。気象庁一元化震源カタログによる。橙の縦破線は現時点を、青横線は背景地震発生率を示す。(a)は対象地震すべて、(b)は深さ 40 km 以深のみを対象に解析した結果。